

香川県直島町，直島能見浦遺跡採集の遺物

岡 嶋 隆 司

一 論 文 要 旨 一

直島に所在する能見浦遺跡は，これまでに師楽式土器包含層の存在と，土師器・弥生式土器の散布が簡単に紹介されているのみである。

今回報告する資料は，踏査時に表面採集されたもので，波と風雨により浸食が進み，壊滅の危機にあるこの遺跡の実態を理解する上で重要であると考えらる。

キーワード：備讃瀬戸，直島，島嶼部，石器，タタキ甕，製塩土器，讃岐系土器，浸食

1. はじめに

2012年5月21日、直島諸島を中心に長年フィールド調査を継続されている竹内信三氏により本遺跡をご案内して頂いた。その際、遺物の散布を確認すると共に若干の遺物を採集した。採集資料の中には、新しい知見を示すものがあり、本遺跡の性格を考える上での重要な資料であると考え、ここに報告することとした次第である。

2. 周辺の遺跡について

能見浦遺跡は、香川県香川郡直島に所在し、直島宮浦港北の風戸山(せとやま)を越えた場所に位置する(第1図)。遺跡は海浜部を中心に北・東・南の三方を山が取り囲んでおり、陸上から到達することは困難である。従って遺跡には、海上から渡船により上陸しなければならない。遺跡に立つと前面に荒神島、葛島が指呼の距離で所在し、岡山県玉野市にも程近く、最短で約2.5kmの距離である。能見浦遺跡周辺には、縄文、弥生時代の散布地、古墳時代の製塩遺跡、古墳など多くの遺跡が存在し、幾つかの遺跡や古墳については発掘調査や資料報告(近藤1995, 岡嶋・竹内・西田2003, 小野・白石2003)がおこなわれている。

3. 採集地点と表採資料

報告する資料は3箇所まで採集した(第2図)。これまでに報告された能見浦遺跡の所見は、浜の奥のテラス状の箇所から濃密な包含層が存在し、台付製塩土器が多数出土しているとされ、また弥生式土器や土師器と考えられるものも表採されている(松本1990)。尚、第1地点の中には、師楽式土器の包含層が存在するが本稿では師楽式土器ならびに包含層については触れない。

(1) 第1地点の資料(第3図)

この地点は、砂浜と背後の平坦面に位置する。ここでは、石器2点を採集した。

1は、サヌカイト製のスクレイパーである。全体に加工を加えており、背部は刃潰しをおこない片側を両面から細かく剥離を施して緩やかなカーブの刃部を作り出している。全体的に軽く波によるローリングを受けている。

長さ4.6cm, 幅6.3cm, 厚さ1.0cm, 重量34.14gを計る。

2は、サヌカイト製の横長薄片から作られたスクレイパーと考えられる。全体的に風化が認められ、一側片を両側から剥離して刃部を作り出している。一部に自然面



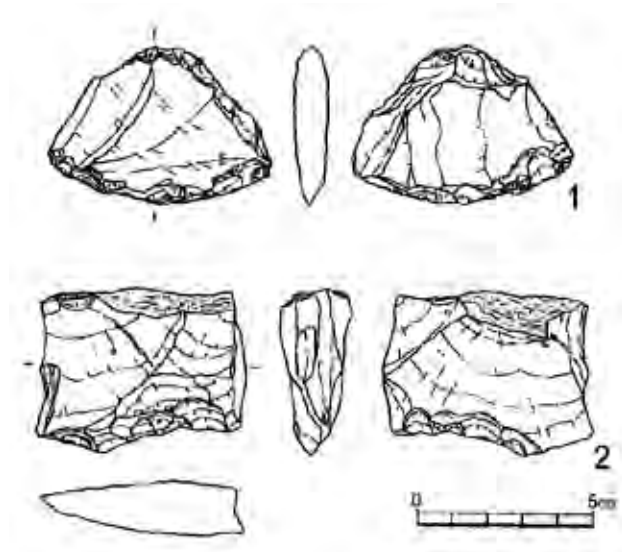
第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡

1 能見浦遺跡, 2 風戸山西古墳, 3 葛島A古墳群, 4 葛島遺跡 I, 5 葛島C古墳群, 6 葛島B古墳群, 7 寺島遺跡第3地点, 8 寺島遺跡第4地点, 9 寺島遺跡第2地点, 10 荒神島遺跡第1地点, 11 荒神島遺跡第2地点, 12 荒神島遺跡第3地点, 13 荒神島遺跡第4地点, 14 荒神島遺跡第4B地点, 15 荒神島遺跡第5地点, 16 中津式土器散布地, 17 荒神島古墳, 18 荒神島遺跡第7地点, 19 荒神島遺跡第9地点, 20 荒神島遺跡第8地点, 21 荒神島遺跡第6地点, 22 二左衛門古墳群第1号墳, 23 二左衛門古墳群第2号墳, 24~29 師楽式土器散布地



第2図 能見浦遺跡分布図(番号は、地点に対応)

1 石器採集地及び師楽式土器散布地, 2 土器散布地, 3 製塩土器散布地, 4 風戸山西古墳



第3図

を残す。長さ4.5cm、幅5.9cm、厚さ1.6cm、重量52.56gを計る。

以上、2点の年代は縄文時代と考えられる。

(2) 第2地点の資料 (第4図)

海浜部に位置する第1地点の北にある東から西へ下る尾根の上に位置する。尾根先端付近は広い平坦面が存在する。上陸直後にこの尾根の先端部崖面に土器片が引っかかっているのが見え、気になり尾根上へ登ってみると土器片が散布しているのを確認した。細片が多く、この中で図示できそうな資料を崖面、尾根上で計4点を採集した。

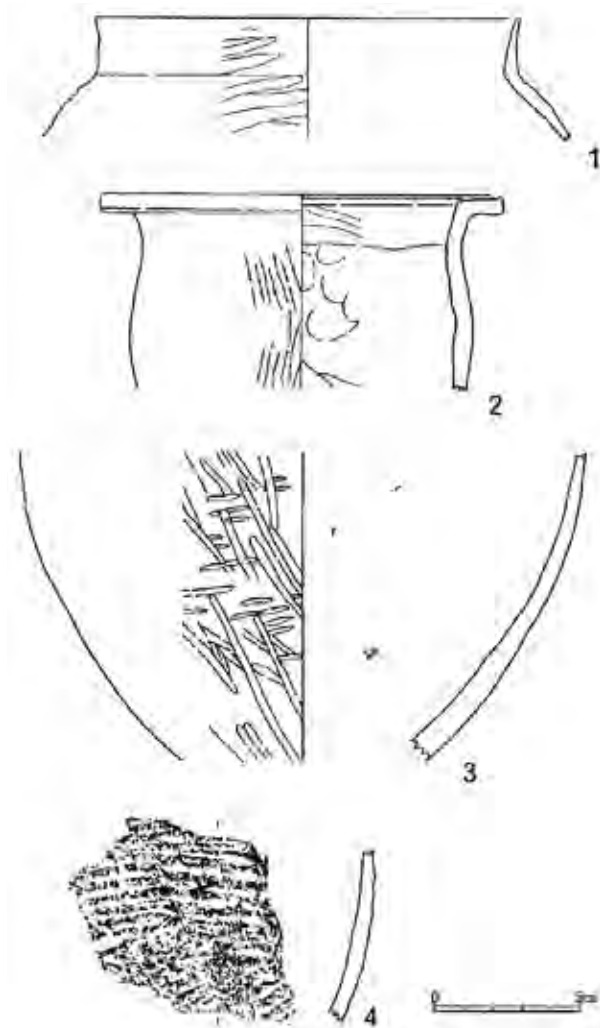
1は、甕の頸部から胴部の破片である。外面にはタタキ目が施されている。胎土中に0.5～3mmの長石、石英を含む。尾根先端崖面採集。

2は、水平口縁を有する広口短頸壺である。外面には、ハケ目を施し、内面にはハケ目、指頭圧跡が認められる。胎土中に0.5～1mmの長石、石英を含む。尾根上採集。

3は、甕の胴部である。外面にはタタキで調整後にヘラミガキを施している。胎土中に4～1mmの長石、石英を多量に含む。尾根上採集。

4は、甕の胴部である。外面にはタタキ目が施されている。胎土中に0.5～1mmの長石、石英を含む。尾根先端崖面採集。

以上の土器は、一般的に讃岐系土器と呼ばれているもので島嶼部においても確認されているものである。年代は弥生時代後期末から古墳時代初頭と考えられる。



第4図

(3) 第3地点の資料 (第5図)

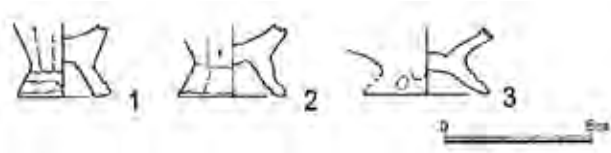
海浜部の第1地点から背後の谷部奥に位置し、ここにある一つの独立した岩の周囲に製塩土器が破片となって散布している。特に目立つのは脚部で器壁が厚い為に遺存していたものと考えられる。この中から注意を引いた3点のみ採集した。

1は、製塩土器脚部である。外面には高台、裾部共に外面ヘラケズリを施している。脚部の広がりとは他の2点よりも細い。胎土中に微少の砂粒を含む。

2は、製塩土器脚部である。高台、裾部共に外面ヘラケズリが認められる。胎土中に1～2mmの石英、長石、雲母を含む。

3は、製塩土器脚部である。高台の一部に指頭圧跡が認められる。他の2点より器壁は薄く、高台の広がりも大きい。胎土中に1～2mmの長石、石英を多く含む。

以上の資料は、岩の周りに散布していること、また海浜部より奥に位置することから、祭祀に関わる可能性も考えられるが、それ以上のことは言えない。



第5図

4. まとめ

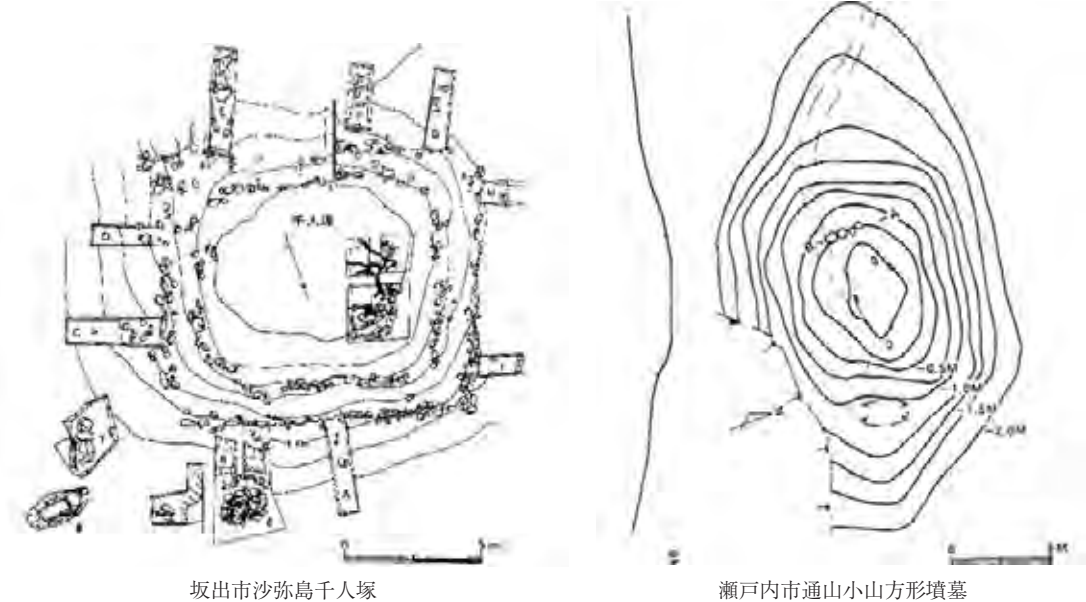
今回報告した資料は、石器、製塩土器脚部、土器類であるが、ここでは製塩土器と土器類の関係について述べてみたい。まず第3地点の製塩土器脚部であるが、年代的には弥生時代後期から古墳時代初頭の範囲で妥当と思われる、番号1→2→3の順での変遷が考えられる。これ

は第2地点の尾根上採集の土器類の年代とも符合する。また、第2地点尾根上では、甕や壺の破片しか見られなかったことから、ここは居住区として、海浜部を製塩等の生産区として理解ができるかもしれない¹⁾。

第1地点南側に位置する崖の上には風戸山西古墳という1辺10m弱の列石を伴う方墳が所在する。この古墳の年代については、古墳時代前期の所産とされている(松本1990)。

近年、同様な方墳の類例が備讃瀬戸を中心に発掘調査や測量調査で確認され、報告もおこなわれている(第6図)。

直島町荒神島に所在する荒神島古墳は、1辺約8mの方墳で、1981年に岡山大学による発掘調査がおこなわれた。墳丘は二重の列石を伴い、箱式石棺を有する。調査により弥生時代後期の精製鉢が出土している(大久保



坂出市沙弥島千人塚

瀬戸内市通山小山方形墳墓



直島風戸山西古墳 列石

第6図

2001)。

坂出市沙弥島に所在する千人塚は、13×12m、高さ2mを測る方墳で二重の列石を伴う。発掘調査により、弥生時代後期の広口壺が出土している（今井1996）。

瀬戸内市邑久町通山に所在する小山墳墓は測量調査により11×11.5mの方墳であることが確認されている。ここからも弥生時代終末から古墳時代初頭の鉢形土器が採集されている（岡嶋・草原1989）。これらの墳墓の形状は、風戸山西古墳と共通な様相を示しており、また年代的にも今回報告した土器類や製塩土器脚部とも近い。このことから風戸山西古墳の年代については弥生時代後期末から古墳時代初頭の範囲内で理解できる可能性がある。

能見浦遺跡ならびに風戸山西古墳の現状は、波と風雨による浸食作用で消失の危機に面しており、他の島嶼部においても同様な状態である。今後も島嶼部への踏査をおこない、島々の遺跡を見守っていききたい。

謝辞

今回の資料報告をおこなうにあたり、最初にご多忙中にも関わらず現地をご案内頂き、有意義なご教示を頂いた竹内信三氏に心からお礼申し上げます。また、扇崎由氏、寒川史也氏、菅 紀浩氏、柳瀬昭彦氏からは有益なご教示を頂いた。特に、菅 紀浩氏には実測等の労を賜った。以上の方々に記してお礼申し上げます。(50音順)

註

1) あくまでも製塩の專業集団という意味ではない。

参考文献

- 秋山 忠・松本豊胤・松本敏三1974『葛島』，香川県教育委員会
 今井和彦1996「沙弥島千人塚遺跡発掘調査」『坂出市内遺跡発掘調査報告書』，坂出市教育委員会，8-15頁
 大久保徹也2001「古墳時代以前の塩飽諸島」『塩飽諸島』，徳島文理大学文学部文化財学科，1-4頁
 岡嶋隆司・草原孝典1989「邑久町通山に所在する方形墳について」『古代吉備』第11集，古代吉備研究会，25-30頁
 岡嶋隆司・竹内信三・西田和浩2003「香川県直島町荒神島採集の旧石器」『古代吉備』第24集，古代吉備研究会，51-60頁
 小野 伸・白石 純2003「香川県直島町寺島・局島・六郎島採集の旧石器」『岡山理科大学自然科学研究所研究報告』第29号，岡山理科大学自然科学研究所，69-72頁
 近藤義郎1995「石斧一題－瀬戸内海荒神島南尾根採集－」『古代吉備』第17集，古代吉備研究会，5-6頁
 近藤義郎編1999『喜兵衛島』－師楽式土器製塩遺跡の研究－，喜兵衛島刊行会
 寶藏光辰1992『地藏山1号墳』，地藏山遺跡発掘調査委員会
 松本豊胤1990「五 直島の古墳」『直島町史』，直島町役場，108-155頁

連絡先

【岡嶋隆司

〒702-8026 岡山市南区浦安本町110-3

犬島貝塚調査保護プロジェクトチーム事務局】



岩の周囲に台付製塩土器が散布



台付製塩土器散布状況（近景）



能見浦遺跡 風戸山西古墳より



能見浦遺跡 中央崖上風戸山西古墳 北より



師楽式土器包含層



能見浦遺跡 東より

図 版